

第2回美祿市総合計画審議会 議事録

日時：平成31年3月20日（水）18：30～20：30

会場：美祿市民会館2階大会議室

	委員区分	団体名	氏名	出欠
1	1号委員 (市議会議員)	美祿市議会	エビスヤ アキヒコ 戎屋 昭彦	
2		美祿市議会	タカギ ノリオ 高木 法生	
3		美祿市議会	タケオカ マサハル 竹岡 昌治	
4		美祿市議会	ナオノ トモカズ 猶野 智和	
5	2号委員 (公募委員)	公募	イノウエ トシオ 井上 敏雄	
6		公募	ウエヤマ マサオ 植山 正雄	
7		公募	カジオカ ヒデヨシ 梶岡 秀吉	
8		公募	ニシダ サキコ 西田 早紀子	欠席
9	3号委員 (学識経験者)	国立大学法人山口大学	タナカ カズヒロ 田中 和広	
10		成進高等学校	ノハラ マサノリ 野原 政典	
11		山口県立美祿青嶺高等学校	フジムラ シンイチロウ 藤村 慎一郎	
12		山口県議会	モリナカ カツヒコ 森中 克彦	欠席
13	4号委員 (関係団体)	山口県宇部県民局	イソムラ ショウジ 磯村 昭二	欠席
14		一般社団法人 美祿青年会議所	ウチウミ ミツオ 内海 満夫	欠席
15		美祿市内郵便局	カトウ ミチコ 加藤 美智子	欠席
16		美祿市教育委員会	カネコ アケミ 金子 明美	
17		美祿市子ども・子育て会議	クラナガ ケンゾウ 倉永 健造	
18		美祿市男女共同参画審議会	コバヤシ ノリコ 小林 法子	
19		美祿郡医師会	サカイ ヒサノリ 坂井 久憲	欠席
20		西京銀行	スエオカ タカオ 末岡 貴夫	
21		カルスト森林組合	タカス シュウゾウ 高須 修三	
22		山口県総合企画部中山間地域づくり推進課	タカダ マサオ 高田 政夫	
23		美祿市商工会	ナイトウ マサタ 内藤 正太	欠席
24		連合山口美祿地区会議	ナガイ マサオ 永井 政夫	
25		美祿市定住促進協議会	ナガタニ アオゾラ 永谷 青空	欠席

	委員区分	団体名	氏名	出欠
26		美祢市社会福祉協議会	ハネ カズタカ 羽根 一孝	
27		美祢市医師会	ハラダ キクオ 原田 菊夫	
28		山口銀行	ヒエダ ユウジ 稗田 裕司	欠席
29		山口新聞	ヒライワ カズヤ 平岩 和也	
30		美祢市体育協会	マセ クニオ 真瀬 邦夫	
31		美祢市小中学校PTA連合会	マツダ タツノブ 松田 龍信	
32		美祢市地域組織活動連絡協議会	ミシマ アケミ 三嶋 明美	
33		一般社団法人 美祢市観光協会	ミズタニ マサヤ 水谷 雅哉	途中参加
34		山口美祢農業協同組合	ヤマモト ヨシツグ 山本 善継	欠席

<資料>

次第、委員名簿、配席表

『資料1』第二次美祢市総合計画「基本構想」素案骨格（案）

『資料2』人口の将来展望（案）

<参考資料>

『資料3』「第一次美祢市総合計画」指標評価（後期基本計画指標評価）

『資料4』美祢市「まち・ひと・しごと創生総合戦略」指標評価

<その他資料>

委員名簿、配席表

1 開会

～資料の確認～

2 会長あいさつ

～田中会長ごあいさつ～

第2回審議会開催ということでお集まりいただきありがとうございます。第1回ではアンケート結果等についてご審議いただいたが、第2回では、第一次総合計画の評価や骨格などをご審議いただく。骨格はこれから基本計画を定めていく上で重要な議論になるかと思う。重要な部分なのでなかなか結論に至らないかもしれないが、皆様にご意見をいただきたいと思っている。総合計画については、市民がこういうまちにしたいという具体的なビジョンが非常に重要だと考えているので、当事者であるということ認識していただき、ご提案いただきたい。先日、国公立の大学と経団連とで行った、地域人材に関する情報交換会の意見

の中でひとつの小さなまちや県に閉じ込めるのではなく、外に行って、東京に行って帰ってきてもらうなど人材の還流が大事なのだとおっしゃっていたことが印象に残っている。広島や福岡との関係も重要かと思う。

事務局より：定足数の報告

会長：委員のみなさまの発言にあたっては挙手をして、名前を述べてからお願いしたい。

3 議事

(1) 第一次美祢市総合計画後期基本計画及び美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括評価について

事務局より：資料1、3について説明

会長：資料3指標の評価について、ご意見ご質問はあるか

会長：想定した通りにはうまくいかなかったというご報告だったと思うが、なぜだったのか。良かったもの、悪かったもののそれぞれの理由をお聞かせいただけるか。

事務局：目標人口3万人と定めながら、全国的な流れに逆らえず、人口減少してしまった。自然増減と社会増減をみると、特に自然増減の少子化を施策で食い止めることができなかった。若者世代の定住・転入につなげられなかったことがひとつの要因かと思われる。その他、商工業の振興において、若者や女性が勤めたいと思える産業振興が進まなかった。また、外国人観光客は台北市の事務所開設やツアーの斡旋などがうまくいき、増加につながったが、秋吉台、秋芳洞などが体験型の観光とすることができず、観光客の滞在時間の増加につながらなかったことも考えられる。

県内からの観光客の増加については、秋吉台高原マラソンやカルストウォークなど従来のイベントの充実やトレイルランやミネストロンなどのスポーツイベントやランタンイベントなど新たな観光イベントが根付いてきたことが考えられる。

松田委員：自然増減についてはどのような対策をとり、効果が出た部分、出なかった部分を教えていただきたい。第二次ベビーブームの世代が45歳を超えてくることはある程度、予想出来ていたのではないか。観光客増加とあったが、他の自治体でも伸びていると思われる。伸び率としてはどうか。

事務局：出生率が伸びなかった要因としては、アンケートからみても、若者が定住しない限り出生数が伸びないことが予想される。その若者が求めるものが仕事と買い物であり、それを住みよいとしたときに、そう感じられていないことが妨げになっているのではなかろうかと考えている。また、現在学校の統廃合を進めているが、地区の同級生が減少しているため転入に結びつかないのではないかと考えている。

他市との比較の詳しい数値は持っていないが、平成27年は、大河ドラマ「花燃ゆ」や世界ジャンボリー、花博、ジオパーク認定などによって伸びている。

水谷委員：美祢市観光協会だが、県全体の伸び率はイベントのあるなしで大きく動くのが特徴。様々なイベントによって、その目的地には人が集まるが、その後地方に流れてくるかは不確定要素が高く、美祢市としてはそこに左右されてしまっている。

団体ツアー客へは旅行会社などへの営業努力が必要でありこの数字にも表れてきていると考えられる。全体の7割近くになる個人客に対しては掴みどころがなくアプローチがなかなか難しい。

交流人口は増えているが洞窟の入場は減っている状況である。

会長：イベントは県の戦略なので活用するのが良い。大阪の観光局の理事長の話ではラグビーワールドカップのスケジュールから地方会場同士の試合と試合の間でサポーターなどにもどのお金を落としてもらえるのかを徹底的に分析している。GPSやカード会社との連携なども使いながら人の動きやお金の動きを綿密に計算されており、そういった取組が重要になってくるのではないかと感じた。まずは来てもらうことが重要。人口動態の動きを自分なりに分析してみたが、一部の地域には人が集まっており、そこには人が住んでも良いと考えられている。世帯数と人口数は別の動きをしていて、美祢市は世帯数が増えた後、現在は減少している。家そのものが無くなってきているのではないか。どこにターゲットを絞るのが重要だと感じた。

会長：資料1 総括評価と方向性について、ご意見ご質問はあるか。

羽根委員：6Pのイメージ図のなかに地域包括ケアシステムがあるが、高齢者支援の分野から出てきた言葉だと認識しているが、狭い意味でとらえれば福祉のことになるが、社会保障、地域福祉など共生社会のなかで、広い意味で使用するのであれば「地域における包括的なケアシステム」のような区分をした方がより伝わりやすいのではないかと感じた。

事務局：地域包括ケアシステムの解釈が広義になっており、団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けて地域で元気に暮らせるよう、健康、介護、住まい、医療、生活支援が一体的に提供される仕組みとして認識しているが、ご指摘についてはまた検討して次回お示しする。

会長：人の育成とあるが、美祢市の子どもたちの進学率などはどうなっているか。東京の大学進学率は76～77%ほど、山口県は39.7%ぐらいで地域格差がある。

事務局：進学率については、平成29年度高校卒業生数175名、進学者84名となっており、50%を切っている状況。

会長：県の平均よりは高い状況のようであるが、県内に進学している人が多ければまた地域に戻ってくる可能性も高いであろう。

事務局：美祢市の状況として、昔は公立高校が3校あったものが1校になってしまっている。私立学校も現在1校である。首都圏等の大学に進学を目指される人は山口市や宇部市の高校に進学している傾向がある。

梶岡委員：15Pの農林資源のところでも伺いたい。六次産業化やミネコレクションのブランド向上もあるが、原料のポテンシャルのアップ、素材の良さが必要。今の美祢のブランド産品は産地ブランドが崩壊しつつある。生産力の強化と合わせて両輪でブランドイメージの向上施策をしていく必要がある。観光における食の重要性は高く、うまくリンクさせていく必要がある。目標自体は達成中となっているが、基準をもっとしっかりとして、東京や都市部に持って行くにはポテンシャルのあるものが必要なので検討して欲しい。

事務局：事務局としても、もっともだと考えている。15Pの中にもあるが、全国的なブランドと認められている状況ではない。美東ごぼうはGI認証をしたが、様々な特徴を活かしたPRを行っていく必要がある。ミネコレについても基準認証をあげて、都会でPRする価値がある商品としていく必要がある。

会長：観光、特産品などを一緒になってPRする必要がある。大事なのはどれだけお金を落としてもらえるのかを重要として考えるべき。グッズなどの買い物や体験型などのステイが重要。

水谷委員：観光について、DMOについては平成29年から創生に向けて動き始めている。組織を作ることも大事だが、中身が大事であり、マーケティングをきちんとしよう動き始

めている。覚悟をもってやるのが大事であり、平成31年の創生に向けて大きく動き出すということで話をしている。なんのためにやるのかといえば、人が戻ってきたときに地元で職があるのかどうかを観光で支えていくということだと思っている。お金を落としてもらって、それを給料に還元する動きが大事。美祢は規制が強いので、大きく舵をきっていかないと難しい部分がある。

会長：内閣府の方が大学にいられて規制が厳しい所はないかとおっしゃっていた。規制は変えていけばよいとのこと、県も理解している。

猶野委員：観光産業の育成とあるが、市内業者の数が減ってきており、力も失われており、育成に加えて“誘致”の概念を加えてほしい。観光の空いている土地や建物はあるので、新たな力を入れて活性化させてほしい。

事務局：観光産業の育成については、現在の産業の強化と食やみやげの開発、起業支援、ツーリズムによる観光産業の創出が含まれており、誘致についても追記させていただく。

植山委員：観光と医療を組み合わせてなんとかならないかと考えている。宇部空港とアジアとの関係はあるため、観光地に医療をもってくることで、人を集めるインパクトがあるのではないかと。家族をつれて観光とともに治療を受けてもらうということも考慮に入れて仕組みを作っていたらいいと思う。

会長：健康と観光を結び付けようという動きがある。美祢は自然が豊かなので、癒しとの連携はできるのかもしれない。

原田委員：先ほどのご提案はとてもよいと思うのだが、医者数が少なくなっており、正直厳しいところがある。そういった場所には人がこない。例えば、関係ができたのでセコムさんに超高級老人ホームをつくっていただき、医療にもつなげていければ可能性はあるのかもしれない。ここでは選択と集中の議論はあるのだろうか。

会長：現在は課題を洗い出しているところであろうかと思う。

植山委員：病院設置については難しい部分であろうが、どのようにやっていくのかが重要なのではないかと。市民病院が2つあるが、そこと連携して市民病院が潤うようなことも考えながら、がんばってほしいと期待したい。

原田委員：セコムさんの力は大きいので、そちらを活用していただくほうが現実的だと思っている。

会長：自然の豊かさを活かして子どもたちの林間学校としての活用の仕方もありかと思っている。アンケートを見ても子どもたちが出たいといっているのはなぜなのか。どのような仕事に就きたいのか。

藤村委員：美祢市に残れと言っても難しい状況。美祢市だけでやる計画として考えるのか、近隣の宇部市長門市などと連携しないといけないのではないかと。市内の子どもの3分の1しか入学してこない。美祢市だけではなく、広くみて動いていく必要があるのではないかと。

会長：県央連携で取り組んでいることも多く、大きなスケールで物事は起こっていると思われるが、そうはいつでも美祢市の総合計画なので、美祢市の事を考えないといけない。

事務局：現在も山口県央連携都市圏の7市町で広域連携をしているが、まずは都市圏として定住を守っていくこと、都会からの移住者の呼び込みが重要である。定住の面では医療、福祉、行政事務の標準化など生活基盤を守っていく。教育の分野でも共通認識を持って連携をしていくことが可能性としてある。

松田委員：PTA連合会でも話をすることがある。教育委員会との対話の場で子どもたちを育

てるにあたっての課題の共有をしている。そこで出てくる意見をこの場でお返しもできるかと思う。呼びかけも増やしている。

小林副会長：20Pで女性の社会進出により少子化したのではという話もあるのだが、断定することではないので、女性の社会進出によって子育ての環境に変化が起こったという表現を変えていただきたい。

(2) 人口ビジョンにおける「人口の将来展望」の改訂(案)について

事務局より：資料2について説明

会長：要するに、県内平均値よりも低い部分は平均値までの増加を目指そうということでしょうか。

事務局：その通りである。

会長：ご意見ご質問はあるか

松田委員：山口県の人口の減少率は全国でワースト3に入るような数値だったのではないかと記憶しており、もう少し高い目標を掲げてはどうか。

事務局：山口県の率は低いと認識している。新たな提案ができるか検討する。

会長：山口県としても人口をあげる努力をするのであろうため、その良くなるところを参考にした方がよいのではないか。

(3) 第二次美祢市総合計画骨格(案)について

① 基本目標の骨格(案)

② まち・ひと・しごと創生総合戦略の骨格(案)

事務局より：資料2について説明

会長：ご意見ご質問はあるか。

事務局：これを基に基本計画が作られていくが、まずはこの骨格を審議して頂きたい。

会長：美祢市としてはどこに力を入れることとしているのか。

事務局：まずは、基本目標5本立てにしており、現行計画と近いものとなっている。まずは安全安心な都市基盤をつくることを優先とする案を打ち出させていただいている。

会長：市民がつくる計画であるべきなので、市民の意見をしっかり聞いていきたいと考えている。

松田委員：総括部分に地域ネットワークの強化とICTの強化が多分に入っていたが、骨格案にもその課題が活かされるようにしていただきたい。

羽根委員：市民ワークショップのとりまとめた内容はどこに反映されるか。

事務局：3月17日から公民館単位の市民ワークショップを開催している。今後の地区の将来を見据えて課題を出し合い、人口が仮に少なくなってもどのように住民主体の地域づくりを行っていくのかを話し合ってもらっている。総合戦略の個性豊かな地区づくり戦略に反映させていただこうと考えている。

原田委員：医師会では地域包括ケアに関してまだシステム化ができていない状況。メディカルケアステーションというSNSを活用した多職種の情報共有システムを導入するよう進

- めている。予算が上がれば仕組みを作り地域包括ケアシステムを実現しようとしている。
- 藤村委員：まちづくりの基本理念が人口減少ありきで考えているのか、減少を食い止めることを前提としているのか。
- 事務局：人口推計では減少していることが事実ではある。10年の市民の計画であり、市民がどのように考えているのかの総論をもって、決めていきたい。
- 会長：安全安心のまちづくりも人口減少への対応と考えられるが、安全安心と観光の2つの軸というのは変わらないと考えてよいか。
- 事務局：美祢市としては人口減少を抑えるために産業中心の対策になってくるのは一つあるかと考えている。現在、安全安心は市民アンケートでも必要性・重要性が高くなっており、まずはベースを固めるということではこちらを進めていきたい。
- 会長：ベースであり、切り口にもなる。安心安全のまちづくりとなれば、外からも選ばれて人が入ってくるという認識である。
- 松田委員：外から人が来るということは周りよりも魅力的でなければいけない。人口の上方修正をお願いしたが、安全安心のまちづくりも観光も他に合わせた数字では他より魅力的にはならない。全体が平均的ではなく、何に特徴を持たせていくのかを表してほしい。
- 事務局：美祢市が他市に無い魅力を伸ばすためには、観光や産業を優先に持ってくるのが重要なのではないかと考えている。
- 会長：地区づくりで3地区出てくるが、施策の展開にあたって市内にどういう拠点や受け皿を作りどういう人材配置をしていくのかというネットワークづくりが大切であろうかと思うが、そういったネットワークや組織づくりも考えられているか。
- 事務局：都市拠点、地域拠点の柱はあるが、都市計画マスタープランの中でもそれぞれの生活拠点を考えている。現在、まずは赤郷をモデル地区として、赤郷夢プランを改訂している。赤郷のような地域であっても若者のグループ活動等が盛んであり、元気な高齢者から幅広い年代での活動により、今後のさまざまな地域振興施策を進めていくこととなっている。そういった地域活動の母体となるような組織を深化させるためにも、各地区ワークショップを通して気運を醸成しているところである。
- 水谷委員：観光が上の動きということはわかるが、移住定住について急に移住して欲しいのは難しい。前段として2地点間居住ということの一つの切り口として概念としてあってもよいのではないか。
- 事務局：参考にさせていただきたい。目標の中にも関係人口づくりとさせていただいており、ツーリズムの造成や副業制度、都会と田舎の交流事業など様々考えられるので促進させていきたい。
- 水谷委員：私自身が現在2地点間居住であり、年に数回家族が来てお金を落としていくこともある。自分自身も消費をしている。
- 会長：経団連でも推奨されていた。

4 その他

- 事務局より：各公民館でワークショップを開催している。3月23日の土曜日にも秋吉、岩永の公民館で行うので対象の方には積極的な参加を促していただきたい。